

転換の予兆を見せるブラジルの社会福祉 右派・保守イデオロギー色の強いボルソナロ政権



JETROアジア経済研究所
サンパウロ海外調査員
近田亮平

『新 世界の社会福祉』

—旬報社70周年記念企画—

- 世界全67カ国の社会福祉について、国内外200名もの研究者・実務家が多角的な視点から分析した、他に類のない大型シリーズ(旬報社)
- 全12巻: 第1期6巻セット(8月初旬発売予定)欧米等
- 第2期6巻セット(2020年2月下旬発売)アジア等
 - 10巻 中南米: メキシコ(畑恵子)、キューバ(山岡加奈子)、コスタリカ(丸岡泰)、ブラジル(近田)、ペルー(遅野井茂雄)、ボリビア(岡田勇)、チリ(浦部浩之)、ウルグアイ(内田みどり)、アルゼンチン・序論(宇佐見耕一)
- <https://gsw.junposha.com/>

転換しつつあるブラジルの社会福祉

右派・保守イデオロギー色の強いボルソナロ政権

『ラテンアメリカ・レポート』 Vol.36 No.1, 7月号

- 本稿は、2019年に誕生したボルソナロ新政権の特徴や施策から、ブラジルの社会福祉が転換しつつある点について考察する。
- 主に1990年代以降におけるブラジルの社会福祉の制度や政策の展開を概観し、1985年の民政移管後のブラジルでは1988年憲法を礎石として社会民主主義的な福祉レジームの構築が志向されてきた点を論じる。
- 右派・保守イデオロギー色が強いというボルソナロ政権の特徴、および、同政権が既に実施した社会分野に関する施策や措置についてまとめる。
- ボルソナロ政権下のブラジルにおける福祉レジームが、家族主義的なレジームに転換しつつあるとの見解を示す。

<https://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Region/Latin.html>

- 年金、保険医療、社会扶助・貧困対策、教育、労働・雇用
- 2018年の大統領選挙

ブラジルの社会福祉の概観

ブラジルの社会福祉制度や政策の展開

- 民政移管(1985年)後に制定された**1988年憲法**
 - ✓ “市民の憲法”:教育、保健医療、労働などの分野における国民の権利を「社会権」として明記
 - ✓ 1988年憲法以前 の社会福祉の対象は、公務員や主要産業などの正規部門の労働者やその家族に限られ、それ以外の国民は多くが公的な制度の枠外
 - ✓ すべての国民を対象とした社会保障の「普遍化」(universalização)を理念として掲げる
 - ✓ 近年のブラジルの社会福祉に関する制度や政策の整備
- 1990年代以降のブラジルの社会福祉
 - ✓ 普遍主義的な制度や政策
 - ✓ 貧困層等を対象にしたターゲティング政策:マクロ経済の安定

ブラジルの社会福祉の概観

民主化後のブラジルが志向してきた福祉レジーム

1988年憲法を礎石にした社会民主主義的な福祉レジーム

新川による福祉国家の類型

ブラジルの社会福祉の現状 年金

- 最初の年金：一部の主要企業を対象とした1923年
- 1990年以降：直接・間接受給率90%超の水準で推移
- ブラジルの公的年金制度
 - ✓ 政府部門の「公務員社会保障制度」(RPPS)
 - ✓ 民間部門の「一般社会保障制度」(RGPS)
 - ✓ 公的年金制度ではない任意加入の「補足保障制度」(RPC)
- 国民間の格差是正：社会扶助的機能
 - ✓ 通称「農村年金」(aposentadoria rural)：1992年
 - ✓ 「継続扶助」(BPC)：1996年
- 年金財政の赤字増加
 - ✓ 人口の少子高齢化、賦課方式、制度の歪み
 - ✓ カルドーゾ、ルーラ、ボルソナロ政権下での年金改革

ブラジルの社会福祉の現状 保健医療

- 「保健医療統一システム」(SUS): 1990年
 - ✓ 無料の公的保健医療サービス
 - ✓ 必ずしも十分な保健医療サービスを提供できていない
 - ✓ 資金・人員・能力の不足
 - ✓ 公的な保健医療制度と民間の医療保険によるサービスとの間の格差
- その他の政策等
 - ✓ 「保健コミュニティ・ワーカー」(Agente Comunitário de Saúde): 1991年
 - ✓ 「家族保健プログラム」(Programa Saúde da Família): 1994年
 - ✓ 抗エイズ・HIV治療のジェネリック薬の生産と無料配布: 1996年
 - ✓ 「医師増員プログラム」(Programa Mais Médicos): 2013年

ブラジルの社会福祉の現状

社会扶助・貧困対策

- 「社会扶助基本法」(LOAS): 1993年
- 「継続扶助」(BPC)
 - ✓ 貧困高齢者(65歳以上)と障害者を対象に最低賃金を支給
- 条件付現金給付政策(CCT)
 - ✓ 子供の就学(教育)や予防接種(保健医療)などを条件に少額を支給: 人的資源への投資、人的資本の形成、貧困の連鎖断絶
 - ✓ Bolsa Escola、児童労働撲滅プログラム(PETI)など
 - ✓ Bolsa Família: 2003年ルーラ労働者党(PT)政権
- その他の政策等
 - ✓ 社会扶助統一システム(SUAS): 2005年
 - ✓ 社会扶助センター(CRAS)、特殊社会扶助センター(CREAS)

ブラジルの社会福祉の現状 教育

- 学校教育制度
 - ✓ 初等教育(6～14歳の9年間): 義務教育、日本の小中学校に相当
 - ✓ 中等教育(15～17歳の3年間): 日本の高校に相当
 - ✓ 高等教育: 大学や大学院
 - ✓ 就学前教育の幼稚園、特殊教育、職業教育、識字教育など
- 教育制度や政策の構築
 - ✓ 初等教育を市政府、中等教育を州政府、高等教育を連邦政府が主管: 1996年
 - ✓ 全国中等教育テスト(Enem): 1998年
 - ✓ 大学促進プログラム(ProUni): 2004年
- ブラジルの教育が抱える問題
 - ✓ 進級の難しさ、中途退学
 - ✓ 公立と私立の学校間の格差、初等・中等および高等教育のねじれ

ブラジルの社会福祉の現状 雇用・労働

- 1943年の統一労働法 (Consolidação das Leis do Trabalho: CLT) を根幹
 - ✓ 勤続期間保証基金 (FGTS) : 1966年
 - ✓ 失業保険制度の本格的な導入 : 1986年
- 1985年以前の軍事政権下のブラジル
 - ✓ ストライキの禁止や労働組合を介したコーポラティズム体制
- 1990年代のマクロ経済の安定や経済のグローバル化
 - ✓ 新自由主義的な労働や雇用の柔軟化政策
- 女性を含む社会的弱者への支援
 - ✓ 職業訓練等による労働能力向上、家政婦の労働条件改善
- 2017年の労働改革
 - ✓ 義務だった組合納付金の任意化 : 労組の財源の大幅減

社会福祉レジーム転換の可能性

ボルソナロ政権の誕生

- 両極化した2018年の大統領選挙
 - ✓ “ファシズム”への「恐れ」
 - ✓ 労働者党(PT)に対する「反感」等



イデオロギー色の強いボルソナロ政権

ボルソナロ政権の今後

右派・保守のイデオロギー

- ボルソナロ“軍事政権”
 - ✓ 大統領・副大統領を含め政府要職に多くの軍関係者
 - ✓ 大統領・議員である息子たちの言動
- 議会の右派・保守の勢力「BBB」と親和的な関係性
 - ✓ Bala(銃弾): 政権発足直後に銃所有、その後に銃携帯の規制を大幅に緩和する大統領令
 - ✓ Boi(牛): アグリビジネスの推進、先住民保護区の見直しなどアマゾン地域の開発、環境規制の緩和
 - ✓ Bíblia(聖書): ボルソナロ大統領自身も福音派の信者。LGBTや人工中絶に関してキリスト教保守の伝統的な価値観を擁護。近年議会内で政治的な勢力を増している福音派議員たちと利益を共有

イデオロギー色の強いボルソナロ政権

ボルソナロ政権の今後

社会福祉の転換を予兆する施策や措置

- 銃規制の緩和、「小さな政府」、年金改革
- 労働組合規制強化
 - ✓ 労働省の廃止、組合納付金の任意・減額化
 - ✓ コーポラティズムの幕引き？
- 市民参加型の連邦審議会廃止（中断）
 - ✓ 労働、女性、高齢者、人種、LGBT、障害者、人権、拷問等
- 教育費の削減：全国規模のデモ参加者を「バカ者」呼ばわり
- 多様性（人種やLGBT）を強調したブラジル銀行のCMを中止
「私の規範ではない。家族を尊重すべきだ。」

政権発足から1～2年が勝負

- 年金や税制改革の成否、景気の方、社会（bolsonalista vs アンチ）・政権内（olavista vs 軍）の対立の激化等

おわりに 転換の予兆を見せるブラジルの社会福祉

社会民主主義的→家族主義的へ転換する可能性



ご清聴 Muito Obrigado



Ryohei Konta